

ノーモア広島 ノーモア長崎 ノーモア福島

池上 園

原爆が投下されて七一年目の広島に行ってきました。原水禁四国大会に参加したことはあったのですが、初めての世界大会でした。暑くて熱い有意義な三日間を経験しました。

八月四日高知県の参加者二名（香美市の三名）で高知を出発、一四時からの開会総会に参加しました。四五〇〇人がアリーナに地域ごとに着席すると、舞台から「青い空は」「おりづる」などの平和のうたが聞こえ、始まる前から熱気が伝わってきました。



原水爆禁止世界大会（さだこ像の前で）

認める立場に立っていること、はとでも残念です。世界で数億を目標にした「ヒロシマ・ナカサキの被爆者が訴える核兵器廃絶国際署名」の運動が広がっています。ベトナムの代表が現在八万筆集めたことを報告すると会場内から大きな拍手が起こりまわりました。海外の人たちも頑張っています。

「核兵器と原発」の分科会に行きました。二百人の参加者があり、初めての人が私を含め九十人もいました。初めに伊方原発差し止め裁判の原告の一人、堀江さんから報告がありました。中央構造線断層帯の真近にあり、狭い敷地に広島の一万余の威力の使用済み核燃料が保管されていることはとても危険である、伊方原発再稼働は生存権、人格権の否定であると訴えていました。五〇km圏内にある地域を抱える高知県は他人事ではありません。

「世界を追求する勇氣を持たなければならぬ」にふれ、世界各国の首脳陣が被爆地を訪問してこの非人道的な兵器の実態を知ってほしいと訴えていました。また、昨年の国連総会で核兵器のない世界を実現するための「具体的で効果的な法的措置」を議論する国連作業部会の設置が決定され、今秋の国連総会でこの作業部会の報告を受けた議論が行われることが報告されました。核兵器をなくすために世界のあらゆる地から一層大きな世論を創っていくことが求められています。一方、大事な役割をはたすべき日本政府は国連総会で核兵器禁止条約の交渉開始に反対し、アメリカの「核抑止力」に依存して核兵器使用も

誰も安全を保障しない福島の自宅には帰れない」と訴えていました。

リトアニアのゲディミナス・リムデイカさんからは原発は安価なエネルギーではないこと、原水協の協力を得て「原爆と人間展」をやっていること、未来は青年のもの、核兵器のない世界を追求しなければならぬと力強い挨拶がありました。ロシアのオレグ・ポドロフさんは廃炉というものは作るより複雑で一〇〇億円以上、三〇〜一〇〇年かかること、核廃棄物の問題、関係者の再就職の問題などシナリオを作り、関係するあらゆる人がかかわらなくては実現できないと訴えていました。

各地からの報告を聞きながら、こんな危なくて人類の未来に影響を与える原発をなぜ作ったのか、また、動かさずとするのか、売り込もうとするのか、老朽化しているのになぜ廃炉にしないのか、増え続ける核廃棄物をどう処理するのか、単純な疑問に戻ってきます。未来に宿題を残さないようきれいな地球を

全国の“元気”いっぱい！ ～日本母親大会～

川村喜美

8月20・21日と金沢と福井で第62回日本母親大会が行われ、2日間でのべ9300人が参加しました。高知からは日と金沢と福井で第62回日本母親大会が行われ、2日間でのべ9300人が参加しました。高知からは



日本母親大会（右川・福井大会）

これが日本母親大会の大きな魅力だと思っています。記念講演は琉球新報社の島洋子さんの「いのち輝く平和な沖縄・日本を」のテーマで行われました。「沖縄は基地で食っている」「日本の抑止力として必要だ」という認識に対して、その間違いを具体的に話されました。基地がないほうが沖縄の経済が潤い、雇用も何倍も拡大することを県民が共有できた。沖縄の現実には日本の民主主義が問われていると呼びかけました。

今回の大会内容で伝えたいことがたくさんありますが、印象に残った言葉を紹介します。活動する女性への「メール」として「美人、長命」、「才女、多忙」、「一点結束（腹六分、互いの違いは違ひとしてつながる）」、「女性は平和の先駆者」、「3人よればママのお茶会」、「若い世代の企画分科会に2300人」等です。

福島の原発事故後、二人の子供と夫と東京に避難しているというお母さんは「国や福島県は避難住宅から追い出し、支援を打ち切ろうとしている。

2年後は高知での開催。高退協のメンバーも男女共に全面的な協力と、ぜひ日本母親大会の素晴らしさを味わってほしいと思います。